

私たちのごくわずかな限られた経験から思いついたことを書き並べてみました。

家に呼ぶときは、なるべく友人、KAHF のメンバーであるなしを問わず、を連れてきてもらうなどして数人は呼ぶようにしています。皆で会話が弾み、かえって楽です。

年齢も大きく離れ、言葉も通じにくく共通話題も少なく困っています。

思いついて、一緒に英語で邦訳字幕付きの映画をテレビで見ました。

その時の感想、「英語のナレーションがあるので日本語の字幕がよくわかった。」

「故郷の家で親兄弟と一緒にテレビを見ているような気がした。」などと言っていました。

皆が黙ってテレビを見つめる二時間でしたが大変楽でした。

学生の出身国への旅行番組を見たこともあります。ナレーションは日本語ですが現地の人との会話や街の音もありました。そのような番組は行き当たりばったりで、前もって録画するのはなかなか難しいですが。

神戸の異人館めぐりをしたとき非常に興味津津で楽しんでくれました。興味を感じることは我々や我々の若い人たちと何の違いもないように感じました。留学生の話をしていると富士急ハイランドへ行ったとか USJ へ行ったとか、日本の若い人たちと変わらないなど感じる場合があります。

KAHF 行事の案内は、KAHF の HP や Facebook で見ることができますが、留学生との接点を少しでも持つため、必ず私からも直接学生に伝えるようにしています。

KAHF から来た行事案内を自分の参加不参加を添えて、添付ファイルで転送しています。

中には義理堅い学生もいますので、行事参加が強制にならないようあくまでも情報として伝えているんだということを強調しています。